

特定非営利活動法人さざなみ

<https://sznm.org>

理事長 島田 拓

沿革

NPO 法人さざなみは東京湾埋め立ての最終段階である 1980 年代初頭、習志野市の湾岸で幼少期を過ごした少年たちが 30 年の時を経て、失われた海辺の再生を願い再会、清掃活動をはじめたことから生まれました。

かつて東京湾奥の水辺は広大な干潟で、人と自然が共存し、生命の息吹あふれる豊かな海辺でした。東京湾奥の原風景を肌で感じた最後の世代である私たちが今何かできることはないか、そんな思いから 2020 年春に海辺の清掃活動が始まり、2022 年に法人化された新しい環境 NPO 法人です。

東京湾保全活動

毎月第 3 日曜日に習志野市の茜浜護岸を中心に清掃活動を行っております。習志野市は東京湾奥では唯一自然護岸や人工海浜の無い都市で、すべての護岸がテトラポットや人口磯、直立護岸となっており、直接水辺に触れることはできません。海辺から離れた人々の心を再び呼び戻そうと、有志の清掃活動が始まりました。2020 年秋には市との交渉の末、現在の回収ゴミ処分のシステムを構築しました。回収されるゴミの量はおそらく近隣でも最大規模で、1 回あたり数 100 kg に及びます。まもなく 50 回の活動となりますが、ゴミの量は減る気配がありません。

里山保全活動

2021 年頃から東京湾岸保全活動と並行して、富津市の山林および耕作放棄地の復元による里山再生活動（房総再生プロジェクト）に取り組んでおります。除草剤や農薬無散布の自然栽培米の収穫や、落葉広葉樹の生い茂る生命多様性に富んだ森作り、県内で絶滅に瀕する水生生物の保存活動など、さまざまな事業を展開しております。2025 年には生命多様性の具現化と持続可能な社会の実現に向けた環境教育活動の拠点となる「さざなみ農園」の開園を予定しています。

埋立地の歴史を伝える

1970～80 年代にかけて習志野市谷津干潟の保全に尽力した活動家である森田三郎氏が 2021 年 11 月に死去されました。このことは東京湾の海辺を守る人々の長い戦いの歴史において、一つの時代の終焉を意味していました。遠い夏、子供たちは時間を忘れ、干潟で泥だらけになり遊んだのです。何もない広大な埋め立て地の草原で、私たちは夢中で駆け回っていたのです。流木を利用して建てられた小さな小屋で、森田らは私たち地元の子供たちに多くのことを教えました。かつては広大な浅瀬が広がっていたこと、ヘドロにまみ

れた干潟の残骸の中にも様々な生き物がいること、人間は決して一人では生きていけないこと。海辺は私たちの学びの場でした。

気候変動、プラスチックによる海洋汚染、土壌の消失、各地で絶え間なく続く紛争、貧富の格差、人類はかつてない困難に直面しています。

人が誰かを愛するとき、その人のことを深く知りたいと思うでしょう。自分の街の歴史、さまざまな困難を乗り越えてきた歩みを知らずして、どうしてその街を好きになり、大切に育てていくことができます。そして自分の街すら愛せない人が、どうして遠く離れた世界で起こる問題を真剣に見つめることができます。

今私たちに何ができるか、何を後世に伝えていけるのか、模索しながら活動を続けてまいります。



2020年夏頃、晩年の森田三郎氏と私
当時谷津の病院に勤務していた私は彼の主治医でした

1980年代初頭、森田三郎と私たち
何もない埋め立て地の草原に建てられた小屋
(通称「フローネの小屋」にて)

